

G-NETしが(滋賀県立男女共同参画センター)では、起業や地域活動への参画など、さまざまなカタチで自分の能力や可能性を開花させ、夢を実現しようとする女性を応援しています。

今回は、女性のチャレンジ支援事業(マザーズチャレンジカフェ、チャレンジ支援講座、チャレンジ相談、チャレンジショップ)に参加した方々のさまざまな夢のカタチを紹介します。

奥村 ひとみ さん

工房「汀の精」

湖の中にある日本唯一の有人島、琵琶湖上に浮かぶ沖島。高校生まで沖島で過ごし、大阪の服飾専門学校へ進んだからはずっと島外で暮らしていました。

しかし、様々な経験から、健康の大切さに気づき、自然と共存した暮らしが出来る環境である故郷沖島に帰ってきました。そして、自然環境に調和した生き方を考え、環境や人に優しい商品開発に取り組みようと工房「汀の精」を開きました。「汀」には、「水際」という意味があり、琵琶湖と共にある暮らしを見つめ、自然を感じる商品を考えています。これまでは、服飾デザイナーとして、洋服・ドレス・靴・小物等オーダーメイドで製作していましたが、それに加え、天然繊維でのオリジナル製品を作り始めました。

知人の協力で、野草を活用した染めや野草料理講座にも取り組んでいます。

●G-NETしがの「チャレンジ相談&チャレンジショップ」を活用して

島の自然から生まれる「自然に馴染む色」を活かした作品をもっと広めたいとの思いが強くなり、平成24年1~3月、G-NETしがのチャレンジショップに出店し、天然繊維製品を販売しました。さらに、ビジネスプラン



をしっかり立てようとセンターのチャレンジ相談も受けました。

昨年9月には、滋賀県の芸術体験事業「学校にアートがやって来た!」で母校近江八幡市立沖島小学校で、講師として子ども



沖島の自宅工房にて 春を感じる作品と共に

たちと一緒に製作したり、麻生地に絵を描くワークショップを行ったりしました。「生活の中の美」をテーマとし、自然を感じる洋服・小物、昔の生活の様子や日常着も展示し、子ども達、先生方からも大変喜ばれました。

自然の中での愛情のこもった教育を体験させていただき、この貴重な体験から、より沖島の暮らしの貴重さ、人情に気づき、喜んでいただける様な場所作りや物産となる商品開発・資源を活かした企画を提案したいと考えようになりました。

そこで、工房の1階を沖島の生活からヒントを得た心地よい空間に改装し、知人や家族の協力のもと、野草を活用した料理や加工品にも力を入れ、ゆくゆくは、地域の方と一緒に、無農薬野菜栽培や加工品を作り、島内、島外の方々にも喜ばれる場所になればと思っています。

天然繊維や湖東地域の麻等も活用し、自然を感じる野草染め等、沖島の物産となる商品開発、沖島の幸や野草を使ったランチプレート・野草茶等もご賞味していただけるカフェコーナーの設置も企画しています。

今は口コミや電話、知人を介しての受注ですが、今後インターネット、HP上でも事業展開して販路開拓を行ってまいります。

藤岡 いづみ さん

野菜ソムリエ

兼業農家で、祖父母の作った野菜を食われるという環境に育ちました。結婚後、親子5人で生まれ育った実家に帰ってきましたが、自分の子どもにも野菜のおいしさを知ってほしいとずっと思い続けていたところ、あるファッションモデルの方がTVで「野菜ソムリエ」の資格を取ったという番組を偶然見て、興味を持ちました。

平成21年12月、一番下の子どもがまだ3歳でしたが、家族の後押しもあり、まず、「初級(ジュニア)野菜ソ



キッズ野菜ソムリエに任命された3人の愛娘と受賞式会場にて

ムリエ」の資格を取りました。食への関心の高い夫の応援を受け、家事や育児などは、家族と分担することで、

さらに「中級の野菜ソムリエ」となることができました。野菜ソムリエの仕事には、野菜料理教室を主宰したり、野菜を使ったレシピをレストランに提案したりするものがありますが、農家という強みを活かして野菜も生産する、数少ない野菜ソムリエの一人だと自負しています。

夫は、私の野菜ソムリエの活動を「仕事」として位置づけ、一番の応援団になってくれています。最近では、夫と二人で、男女と一緒に野菜料理をする婚活イベント「コンパ in the kitchen」を開催するなど二人三脚で活動の幅を広げています。

また、小学5年・3年・1年生の3人の娘たちは、昨年「キッズ野菜ソムリエ」に任命され、子ども向け食育イベントの企画では娘たちがアドバイスをくれたりします。家族中を巻き込んで野菜ソムリエの活動をしてきたことが、理解や協力につながったと思います。

●G-NETしがの「女性のチャレンジ支援講座」を受講 & マザーズビズカフェ講師

事業計画を立てる力をもっとつけたいと思い、平成24年度に、G-NETしがの「女性のチャレンジ支援講座」を受講しました。それがきっかけとなり、同センターの

高木 あゆみ さん

ショップマドレ

学生時代にオーストラリア留学をしました。シドニーのような都会は肌に合わず、タスマニアでは1カ月間の自給自足の生活を経験しました。帰国後、自分が役に立てることをと思い、米粉を使ったお菓子を開発、母と伯母、自分の友人の4人でショップマドレを始めました。自宅の物置を改造して厨房にし、会社を経営する父がさまざまな申請などに協力してくれました。順調にことが運び、平成22年6月にオープンしました。

●チャレンジショップに出店

ショップマドレを始めると、次第に自分のショップにはこれといった特長がないことに悩みます。そんな時、ある方から声をかけていただき、平成22年にG-NETしがのチャレンジショップに出店することとなりました。ところが、いざ出店してみたものの、お客さんが一人も来てくれない日もあり、「あっ、広報をしないと!」と気づき、ブログを本格的に始めました。失敗もつづやくこ

マザーズビズカフェの講師もさせていただきました。(※現在はマザーズチャレンジカフェに名称変更) G-NETしがでは、さまざまなチャレンジをめざす女性たちとの出会いがあり、ネットワークが広がりました。チャレンジ支援講座修了後も交流が続き、彼女たちから刺激を受け、励みとなっています。

●今後のチャレンジは?

昨年、日本野菜ソムリエ協会認定の「地域校制度」を活用し、JAおうみ富士の「おうみんち」で滋賀教室を開設しました。今年はそれを軌道に乗せたいと思っています。

さらに、アスリートの「食」をサポートする「ジュニア・アスリートフードマイスター」という新しい資格も取ったので、スポーツ少年団のママを対象にしたイベントにも挑戦したいです。

また、地域でのつながりも大切にしたいとの思いから、「須原魚のゆりかご水田協議会」の日本酒を作るプロジェクトに関わり、近江のこしひかりで「月夜のゆりかご」というお酒を作っています。これからも、「何にでも挑戦する!」という気持ちで前に進んでいきたいと思っています。



ショップマドレとしてイベントに参加

とで、お客さんとのつながり感もでき、ネットワークが広がりました。

●今、大切にしていることは?

人とのつながりを大切にしています。地産地消をモットーに滋賀県産米を自家製粉した米粉と安土産の卵や蜂蜜、東近江市産の豆乳を中心にスイーツを作ったり、こだわりを持って活動していると、県内どこへ行っても顔見知りばかりに出会うほどつながりが広がりました。これからも、こだわりを大切に、人のつながる場を提供する活動に力を入れていきたいです。

G-NETしがではあなたのチャレンジを応援しています!

G-NETしがでは、起業やNPO活動、地域活動などのあらゆる分野で社会参画し、活躍しようとするチャレンジ女性を対象に相談や具体的なスキルを学ぶ講座の実施、実践を学ぶ場の提供を行っています。

【平成26年度事業】

●女性のチャレンジ支援講座 起業・社会活動を目指す女性を対象に、ライフプランニング、事業計画の立て方など起業するために必要なスキルを学ぶ講座

●女性のためのチャレンジ相談 起業、キャリアアップ、社会活動等、チャレンジしたい女性に専門の相談員がアドバイス

●実践を学ぶチャレンジショップ チャレンジする女性が当センター内でチャレンジショップを開設し、実践を学ぶ場を提供

●女性のチャレンジ支援サイト「チャレンジサイトしが」 チャレンジしたい女性のための情報サイト

県内各地で活躍する女性たちの事例集や講座・イベント・資格・相談

窓口などの情報が満載 <http://www.pref.shiga.lg.jp/c/challenge/>

